

岡山県立図書館

〒700-0823
岡山県北区丸の内2丁目6-30



岡山県立図書館 総括参事
(サービス第一課長)

図書館に携わっていらっしゃる方でしたら既にご存知の方も多いかと思いますが、今回、ご紹介させていただきますのは来館者数、貸出冊数が全国の都道府県立図書館で1位、しかも9年連続という岡山県立図書館です。この快挙を成し遂げた図書館がいったいどのような図書館なのか大変に興味を持ちましてさっそく、岡山までお話を伺いに参りました。

山陽新幹線で岡山駅から岡電バスで約10分、県庁前で下車しますとすぐに目の前に大きな岡山県立図書館がございました。外観は特にデザインが凝った建築という感じではなく、よくある重厚な図書館という印象でした。



さっそくエントランスに入館し、本日のお話を伺う森山様を訪ねました。

「どのような方なのかなあ」と少し緊張しながら事務所まで伺うと、とても温和で誠実な森山様が現れ、突然の強引なアポを謝罪しつつ、お話を伺うことが出来ました。

新館開館後、9年連続で来館者数、貸出冊数が全国第一位という素晴らしい快挙を成し遂げるまでには紆余曲折あったようです。当初の新館計画では、旧日銀岡山支店跡地に、優美な大正建築様式の旧日銀本館を保存しながら、公文書館との複合施設を作るというものでした。しかし、高層建築で使いにくい等の諸々の問題が浮上し、大きな住民反対運動にまで発展したことによって、新館計画は頓挫し、その後9年間保留になったとのことでした。

しかし、9年間の足踏み期間を経て、仕切り直しのための新たな構想が示されます。そこでは、「利用者目線」で計画を見直し、住民の要望を取り入れ、応えることに取り組んだそうです。高層建築ではなく、階層を出来る限り少なくしバリアフリーにすることでご年配の利用者また障害者の皆様が利用しやすいこと、駐車場の完備、また児童サービスがこれまで全くなかったことで新たに児童サービスを充実させること、資料の充実を図ることを掲げようやく利用者の要望に応えた新図書館が開館することになったそうです。同時に、県と市町村とのコミュニケーションを深めたそうです。

森山様は新図書館において3点の重要項目を挙げられました。それは「資料」「人」「建物」の3点です。

一つ目の「資料」は資料の充実こそが図書館の重要な役割であること。岡山県立図書館の図書資料費予

算額は全国第二位、また購入冊数は全国第一位となっております。購入のために別途、基金の設立もされたり、また寄付による支援もあったりしたようです。

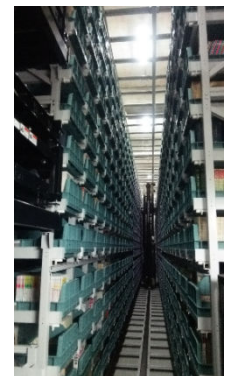
二つ目の「人」は利用者に専門的サービスを提供すること。レファレンスカウンターでは専門分野6部門に分ける工夫をされ専門の職員を配置されています。

三つ目の「建物」はデザインより、使いやすさを重視したとのこと。そしてこの使いやすさこそがその後の利用に大きく左右したと感じているとのことでした。また導線が悪い、出入口が多い、死角が多いと管理も難しいことを挙げられていました。また「自動化書庫」も導入され、人によるサービスと機械によるサービス、それぞれの利点を上手く利用していると感じました。



森山様から一通りのお話をお聞きし、いよいよ図書館内の見学をさせていただきました。まず、エントランスからでは感じ取れなかったのですが、入館してまずびっくりしましたのはとても広々と見渡しの良い図書館レイアウトとなっていることです。また利用者は想像以上に多く、学生(中・高・大)は熱心に勉強をされており、少しご年配の皆様のための活字が拡大されている図書スペース、親子連れの児童サービススペース、DVD/音楽を視聴できるスペース、利用者がそれぞれに図書館を楽しくかつ有効に利用され、大変に活気のある図書館でした。ただし、席数に限りがあるので、持ち込み資料のみを用いた自習についてはご遠慮いただいているそうです。

レファレンスのカウンターはとても大きく、6部門に分かれていることで利用者を持たせないことももちろんですが、専門分野に分かれていることで質問に関する的確な回答がいただける点は利用者に取りましてはとても有り難いサービスになっていると強く感じました。また、探している本はカウンターで入力することで「自動化書庫」という検索・出納システムによって機械が書庫からその本を選別し、カウンターの後ろまで自動的に届けられます。これは本当に感動しました。そしてその時間はストップウォッチで計るとたったの3分! だそうです。しかし、カウンターのお知らせ看板は「15分から20分」お待ちいただくことが記載されてあります。3分はあくまでも他の業務による阻害要因が全くない状態で計った時間ですので、ご来館の際には少し時間が必要と考えていただく方が良いと思います。



児童サービスコーナーの児童書の充実にも驚かされました。岡山県立図書館では出版されている児童書は全て購入されているとのこと。また親子で図書館を利用していただけるような色々なイベントも開催し、休日は家族で利用する活気のあるスペースとなっています。また、児童書分野において研究をされている方のために別途、児童サービスコーナーの隣にスペースを確保され、専門書も充実しておりました。





館内では小さな仕掛けの一つとして、返却された図書はすぐに書架へ排架させずに「返ってきたばかりの本」と掲示して、ブックトラックにおいてあります。これを見えるようにすることで自分ではなかなか目を向けない新たな分野にも目を向ける効果もあるようです。また少しずつ大学でも増えている英語多読コーナーも非常に人気があり、TOEICの成績向上に貢献されているようです。

その他に県内の公共図書館、大学図書館が所蔵する資料を一括検索できる、利用者からすると大変便利な図書館横断検索システムがあり、図書館間で無料で取り寄せることができるのも嬉しいサービスです。そして最後に有料ではありますが撮影室（スタジオ）、編集室も備えられています。ただし、電子図書館システム「デジタル岡山大百科」郷土情報ネットワークにコンテンツ登録する目的であれば、無料で使えるそうです。



本日、お話を伺い、また見学させていただくことで感じましたのは、全てにおきまして利用者目線で図書館の運営がされていること。そしてどの世代であっても充実した資料の元で知識を満たしてくれる、

また楽しめる知的空間の図書館であること。このことが利用者から絶大な人気を集め、9年連続で来館者数、貸出冊数全国第一位の快挙を成し遂げている理由と納得させていただきました。

皆様も岡山にお寄りの際、この岡山県立図書館にお立ち寄りいただくのは如何でしょうか。利用者目線での取り組みの効果を実感して頂けるのではないのでしょうか。

